

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 杉原 充志

作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
社会と法律	基盤教育科目	1～4 年	
法律学 I	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
民法 II	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
行政法	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
専門ゼミナール I	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナール III	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
日本国憲法	基盤教育科目	1～4 年	
法律学 II	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
地域行政論	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
導入ゼミナール II	専門科目（現代社会学科）	2 年	
専門ゼミナール II	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナール IV	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
キャリアサポート演習 A 2（公務員入門）	基盤教育科目	1～4 年	

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

1. 法律系科目を担当し、公務員養成にも力を入れる立場から、私が自身の究極の教育目標としているのは真の「主権者」の育成である。
2. ディプロマ・ポリシーとの関係では、専門科目は「現代社会の課題を理解するための基本的な知識を修得」したうえで、その基礎知識を用いて、「社会の課題を具体的に説明する」ことができようになること。また、基盤教育科目においては、「人間、社会、文化、地域の多様性についての基本知識を修得」したうえで、世の中に「多様な価値観があることを理解し、幅広い視野と柔軟な感性で現代社会の様々な事象を受けとめ、理解する」ことができるようになること。
3. 個々の授業においては、一人一人の学生が法律の世界を通して生身の人間の生き様（弱さ）を知り、そのうえで法的なもの（リーガルマインド）を身につけることができるように、「人間学」としての法律学と「スキル」としての法律学の両立を心掛け、日々の教育にあたっている。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自立的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】 ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏名 高橋 正
作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神「『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
基礎数学	基盤教育科目	1～4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
情報倫理	基盤教育科目	1～4年	
基礎数学	基盤教育科目	1～4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

--

5～10行以内でご記載ください

本学では、これまで数学をはじめ理系科目が不得意だった学生が多い。そのような学生は、「自分は、数学や理系科目ができない」という劣等感を抱いている。そのような学生は、どこができないのか、どのようにすれば理解できるのかという発想そのものもからも逃避する傾向がある。しかし、少しずつ自分のペースで理解することを繰り返せば、苦手意識は薄らぎ、大学での学びが自分の興味・関心を深める場であること、社会的関心を深め社会の中で自分が果たす役割を自覚すること、友人との学び合いができる「楽しい」学びの場であることを実感できるようになる。授業においては、そのような学生が一人でも増えることを心がけ、基礎・基本を丁寧に説明する授業を心がけています。全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、基礎数学は DP2-1（基本リテラシー）「数的思考力」の育成、情報倫理は DP2-1（基本リテラシー）「基礎的な ICT 活用力」の育成に力点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

4. 成果と課題、今後の計画

--

* 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

【添付資料】

* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。

* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏名 中川 恵
作成日 2024年9月26日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- 責務（何を行っているか） 担当科目など
- 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
国際メディア論 I	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	第 1 Q
国際メディア論 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	第 2 Q

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
地域研究 D	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	第 3 Q
国際関係論	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	第 4 Q

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

現代社会において多様性尊重の重要性は広く認識されていますが、実際には国内外を問わず、様々な形での紛争や対立が存在しています。大学入学までの大半もしくはすべての時期を日本国内のみで過ごした日本人学生、また母国と唯一の外国として日本での滞在経験に限定される留学生に対し、広く世界の文化や社会の成り立ち、現状に目を向けてもらい、またメディアによる報道や伝え方の特徴を知ることによって大量に流れる情報の受け止め方、そして発信の仕方を修得してもらえよう留意した授業を心がけています。学生には、本学の建学の精神である「自由・自主・自律」の精神を持って、真実を探求する大切さを卒業時には自らのものとして体得して巣立ってほしいと考えています。卒業後の社会は、現在より多様な背景を持つ人々が共生する必要性が大きくなっていると考えられますので、異文化を初めとして、自らとは異なるバックグラウンドを理解し、共生社会を担うことのできる人材を育成することに力点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

教育方針 1

工夫①：

工夫②：

教育方針 2

工夫①：

工夫②：

教育方針 3

工夫①：

工夫②：

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

【課題と今後の展望】 ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

* 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

【添付資料】

* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。

* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏名 早岡 英介
作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神「『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
取材と編集 I	放送・メディア分野	3 年	第 1 Q
映像編集応用	放送・メディア分野	3 年	
大学入門ゼミナール I	大学導入分野	1 年	
専門ゼミナール I	専門演習分野	2 年	
専門ゼミナール III	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文 I	専門演習分野	4 年	2 コマ開講

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
取材と編集 I	放送・メディア分野	3 年	第 3Q
映像編集基礎	専門導入分野	1 年	2 コマ開講
大学入門ゼミナール II	大学導入分野	1 年	
専門ゼミナール IV	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文 II	専門演習分野	4 年	2 コマ開講

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

* 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。

* 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

メディアを巡る環境は激変し、放送と通信の融合が急速に進んでいます。各個人が YouTube や Instagram、X 等を通して情報発信することが当たり前となり、送り手にもなることで、個人とメディアの関係性は多様化の一途をたどっています。

過去の放送分野での教育実績をもとに、先端技術を取り入れたさらなる教育実践を進めていくことが重要です。例えば撮影分野でいえば、一眼レフ、アクションカメラ、スタビライザーといった多様な映像デバイスによる表現手法の習得。編集分野でいえば、Adobe のソフトや 3DCG ソフトに加え、画像生成 AI 機能の習得があげられます。

また DP4-1 統合的な学修経験と創造的思考力の育成のためには、こうした技術の習得以前に、学生が社会の実相をとらえるための教養やリテラシー、思考力がなければ、創造性を発揮することはできません。個人のスキルの幅を広げ、自ら伝えることの喜びや意欲を育みたいと考えています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】 ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏名 北波 英幸
作成日 2024年9月26日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
シナリオ・絵コンテ	映像コンテンツ分野	2年	
総合メディア論Ⅱ	学科共通専門分野	2年	
メディアリテラシー	学科共通専門分野	2年	
制作概論	放送・メディア分野	1年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習分野	2年	
専門ゼミナールⅢ	専門演習分野	3年	
卒業制作・論文Ⅰ	専門演習分野	4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
なし			

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
シナリオ・絵コンテ	映像コンテンツ分野	2年	
総合メディア論Ⅱ	学科共通専門分野	2年	
専門ゼミナールⅡ	専門演習分野	2年	
専門ゼミナールⅣ	専門演習分野	3年	
卒業制作・論文Ⅱ	専門演習分野	4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
なし			

2. 理念

放送・インターネット配信など接触機会が多様化するメディア社会における DP2-1（基本リテラシー）の習得を大きなテーマとし、3つの柱を念頭におきます。

第一に「コミュニケーションのフレーム」です。何を伝えるのか（what to say）、どのように伝えるのか（how to say）を明確に意識する枠組みです。さらに「受け手」の姿を想定しつつコンテンツへと落とし込みます。趣味の制作との違いは、コミュニケーション・プロセスを理解することです。

第二に「表現のフレーム」です。「how to say」を練り上げる技術です。制作過程でのリサーチ、構成台本執筆・個人／グループ制作経験を通じ、DP4-1（課題解決力）や DP3-3（協働力）の育成を目指します。

第三に「表現を支える理論や技術のフレーム」です。様々なメディア社会にまつわる理論や歴史を知ることです。すぐに理解できなくとも、社会に出たのち「そういえば」と思い出せることもまた重要だと考えます。DP4-2（生涯学習力）に通じる長期的な効果を見通した教育機会と考えます。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自立的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】 ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

放送・メディア学科

氏名 玉井敏晴

作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
グラフィックデザイン I	専門導入分野	1～4 年	
CG 演習 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
CG 演習 III	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
映像デザイン論	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
専門ゼミナール III	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文 I	専門演習分野	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
CG 演習 I	専門導入分野	1～4 年	
空撮演習	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
コンポジット演習	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
専門ゼミナール II	専門演習分野	2 年	
専門ゼミナール IV	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文 II	専門演習分野	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

私の教育に対する理念は、建学の精神をもと、学生一人ひとりの特性や興味を尊重し、彼らが自らの目標を追求できる環境を提供、支援し、社会に貢献できる人材を育てることにあります。教育上の目的は、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけることです。授業では、知識だけでなく、思考力や創造力を養うためのアプローチを取り入れています。特に「基本リテラシー」と「自己管理能力」の育成を重視し、学生が将来の社会で自信を持って活躍できるようサポートします。学生が仲間と共に学び合い、多様な視点を持つことの重要性を理解し、成長に向けた主体的な取り組みを支援し、未来の社会を担う人材を育成に注力しています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を簡条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を簡条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。

* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏名 永岡 俊哉
作成日 2024年9月29日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学入門ゼミナールⅠ	大学導入分野	1年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習分野	2年	
専門ゼミナールⅢ	専門演習分野	3年	
卒業制作・論文Ⅰ	専門演習分野	4年	
アナウンスメント基礎	専門導入分野	1年	
メディア産業論	放送・メディア分野	2年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
なし			

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学入門ゼミナールⅡ	大学導入分野	1年	
専門ゼミナールⅡ	専門演習分野	2年	
専門ゼミナールⅣ	専門演習分野	3年	
卒業制作・論文Ⅱ	専門演習分野	4年	
アナウンス概論	放送・メディア分野	2年	
エンターテイメント論	放送・メディア分野	2年	
放送メディア特別講義 B	学科共通専門	2年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
なし			

2. 理念

人の生命を守る事が最も重要な使命であるメディア、特に放送業界で働く事を目指す学生に、「最も大事なことを、全ての人に対して、直ちに、正確に理解してもらうために伝えるという力」を習得してもらう事を最重要事項としてすべての講義、ゼミを行っている。

1年次では人前で話し、伝える事の重要性を理解し、その力を得てもらうために、自己紹介や自己の興味を伝える、他人に興味を持ち調べ多くの人に伝える、人前で話し理解してもらう事を反復して行わせている。また、研究者としてのスタートを切った大学生として、自分のテーマを見つける事も促している。DP2-1（基本リテラシー）DP3-2（学修習慣）相当

2年次、3年次では伝える力をさらに強化するとともに、グループで映像や音声を作り上げる事や、与えられたテーマや課題をクリアしていく事、失敗したり間違ってしまった後にリカバーする事を行わせている。DP3-2（学修習慣）DP3-3（協働力）DP4-1（課題解決力）相当

4年次では世界で一つしかない作品を作る卒業制作を中心に、社会でも通用する能力を習得させる事や、能動的にキャリア形成していく事を促している。DP3-2（学修習慣）DP3-3（協働力）DP4-1（課題解決力）DP4-2（生涯学習力）相当

全学年を通して、放送・メディア映像学科の全ディプロマポリシーに基いた、社会で活躍できる放送メディア人の育成を行っている。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自立的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】 ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏名 内田 知巳
作成日 2024年9月26日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スタジオ基本操作	専門導入科目	1～4 年	3 クラス
放送メディア特別演習 A	専門科目(放送・メディア映像学科)	2～4 年	Q1、Q2 2 クラス
専門ゼミナール I	専門演習科目(放送・メディア映像学科)	2～4 年	
専門ゼミナール III	専門演習科目(放送・メディア映像学科)	3～4 年	
卒業制作・論文 I	専門演習科目(放送・メディア映像学科)	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
------	------	------	----------

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
映像編集基礎	専門導入科目	1～4 年	2 クラス
撮影技法	専門科目(放送・メディア映像学科)	2～4 年	
大学入門ゼミナール II	大学導入分野	1～4 年	
専門ゼミナール IV	専門演習科目(放送・メディア映像学科)	2～4 年	
卒業制作・論文 II	専門演習科目(放送・メディア映像学科)	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
放送メディア特別演習 B	専門科目(放送・メディア映像学科)	3～4 年	

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

映像制作、その関連職業への興味を高める、卒業後その分野を志す学生を育て、現代社会の中での、放送その他コンテンツ生み出し、社会に資する人材となってもらえるよう心がける。

また、理論・知識の習得し、その後実践的な演習につなげる段階的に進みやすい科目構成を構築。

制作課題を積み重ね、自分の学習成果を習作作品として見える形で残すことで、就職活動時のポートフォリオとしても活用でき、学習成果としての実感を持たせる。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

教育方針1 実際にあるコンテンツの中で生かされている技術・知識を提示する。

工夫①：ドラマ、映画、番組の1シーンを実例として提示し、理論や技術を開設。

工夫②：できるだけ、実際の機材に触れ、体験と知識を蓄積させる。

教育方針2 学習のアウトカムを出す

工夫①：制作課題を課すことで、授業外での学習時間を確保する

工夫②：成果物を上映・視聴する形で達成感や他学生のダイレクトな反応を実感させる。

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。

* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

学内ファッションショーやオープンキャンパスでの放送メディアコース体験授業の学生スタッフなど、オフキャンパス活動で知識・技術を活用した実践が出来た。

【課題と今後の展望】 ※今後、取り組みたい内容などでも結構です
反転学習教材の追加、配布資料のデジタル化を進めたい。

* 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏名 倉橋 農
作成日 2024年9月29日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神「『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
卒業制作・論文 I	専門科目（放送・メディア映像学科）	4年	
情報処理入門	基盤教育科目	1年	
プログラミング基礎 I	専門科目（放送・メディア映像学科）	1年	
専門ゼミナール I	専門科目（放送・メディア映像学科）	2年	
専門ゼミナール III	専門科目（放送・メディア映像学科）	3年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
------	------	------	----------

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
卒業制作・論文 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	4年	
情報処理入門	基盤教育科目	1年	
プログラミング基礎 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	1年	
専門ゼミナール II	専門科目（放送・メディア映像学科）	2年	
専門ゼミナール IV	専門科目（放送・メディア映像学科）	3年	
電子工作基礎	専門科目（放送・メディア映像学科）	2年	第3Q
放送メディア特別演習 C	専門科目（放送・メディア映像学科）	2年	第3Q
電子工作応用	専門科目（放送・メディア映像学科）	2年	第4Q
放送メディア特別演習 D	専門科目（放送・メディア映像学科）	3年	第4Q

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
------	------	------	----------

2. 理念

5～10行以内でご記載ください

教員はともすれば学生を子供扱いしてしまいがちです。学生は教育の対象であるがゆえ、導いていかななくてはいけない存在ですが、それと同時に、すでに分別を持った成人でもあります。それゆえ、一人前の大人として対等な立場で接することを心がけています。それにより、学生も大人としてのマナーや自覚の涵養をうけ、自立した存在として育っていくことが可能だと考えています。これは、DP3-2（学修習慣）「自己を管理する力を身につけ、自らの立てた目標に向かって計画的、持続的に学修する習慣」にもつながる力です。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

- 工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。
- 工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

- 工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。
- 工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

- 工夫①：・・・
- 工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自立的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】 ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。